

# 教 生徒指導論

Study of Student Guidance

KONISHI Etsuko  
小西 悦子

科目ナンバリング : UTL-2-311-06



## ■授業の目的及び到達目標

本授業の目的は、生徒指導を教育活動全体を通じて組織的に推進することができるように、その意義や原理、進め方を理解することである。生徒指導の意義や原理、それを踏まえた学級(ホームルーム)・学年・学校における生徒指導の進め方、及び生徒指導上の主な課題と、校内外の連携も含めた組織的な対応の在り方を理解できることが到達目標となる。

## ■授業計画

- 1 生徒指導の意義と原理(1)  
生徒指導の意義と課題とともに、教育課程における生徒指導の位置づけを理解する。
- 2 生徒指導の意義と原理(2)  
生徒指導の前提となる発達観と指導観、集団指導・個別指導の方法原理を理解する。
- 3 生徒指導と各教科との関連  
教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、部活動等における生徒指導の意義や重要性を理解する。
- 4 生徒指導と教育相談  
生徒指導と教育相談に対する基礎的な考え方とその違いを理解する。  
青年期の発達の特徴と生徒指導における生徒理解の重要性を、事例を通して理解する。
- 5 生徒指導の進め方(1)  
学校の指導方針、学校・学年・学級の教育計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解する。
- 6 生徒指導の進め方(2)  
基本的な生活習慣を確立し、規範意識・倫理観を醸成する日常的な生徒指導の在り方を理解する。
- 7 生徒指導に関する法制度  
校則、懲戒、体罰等の生徒指導に関する主なきまりや法令等の内容を理解する。
- 8 個別の課題を抱える生徒への指導(1)  
学級担任、教科担任等の立場で生徒の自己肯定感を育む生徒指導をどう進めるかを考える。
- 9 個別の課題を抱える生徒への指導(2)  
少年非行、暴力行為の定義を理解し、早期発見の事例を通して生徒指導上の対応の視点を理解する。
- 10 個別の課題を抱える生徒への指導(3)  
いじめ、不登校の定義を理解し、事例(高校の中退含む)を通して生徒指導上の対応の視点を理解する。
- 11 個別の課題を抱える生徒への指導(4)  
インターネットや性に関する課題、児童虐待、自殺などへの生徒指導上の対応の視点を理解する。
- 12 家庭・地域・関係機関との連携  
個別の課題を抱える生徒への指導に「チーム学校」としてどう対応するかを具体的に考える。
- 13 学修のまとめの試験と解説  
試験、及び試験後のフィードバックとしての解説を行い、これまでの学修の到達度を確認する。

## ■授業の方法

- ・教科書を使った講義を行う。
- ・グループ討議を行い、多様な視点から生徒指導の進め方を具体的に理解する。
- ・場面指導におけるロールプレイングを行う。
- ・授業の振り返りをまとめる。

## ■予習・復習

予習：次回の授業内容に関するテキストの箇所をよく読んで、関連する情報を各自で収集し、自分の意見を述べるができるようにしておく。

復習：授業内容をもとにした課題の提出を求める。

## ■成績評価の方法(成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い)

試験 60%、課題やレポートの作成(予習・復習を含む)・演習を含む授業中の取組状況 40%で評価する。  
なお、毎回の冒頭(もしくはBb上)で課題や振り返りレポートの講評を行う。

## ■教科書・参考書

教科書：梅澤秀監・木内隆生・出張吉訓・嶋崎政男編著『生徒指導・進路指導 15 講』大学図書出版(2023年)

参考書：『生徒指導提要(改訂版)』(2022年12月)文部科学省 HP

[https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt\\_jidou02-000024699-001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf)

## ■関連する科目

「教育原理」「教職論」「教育課程論」「特別活動論」「進路指導論」などの教職課程科目が直接関連する。

## ■当該科目の実務経験(該当する場合のみ記載)

担当教員は、私立・公立高等学校にて通算36年間の勤務があり、多様な学校における生徒指導の実務経験と、生徒指導研究の実績を持つ。それらを踏まえた実践的な講義と演習を行う。